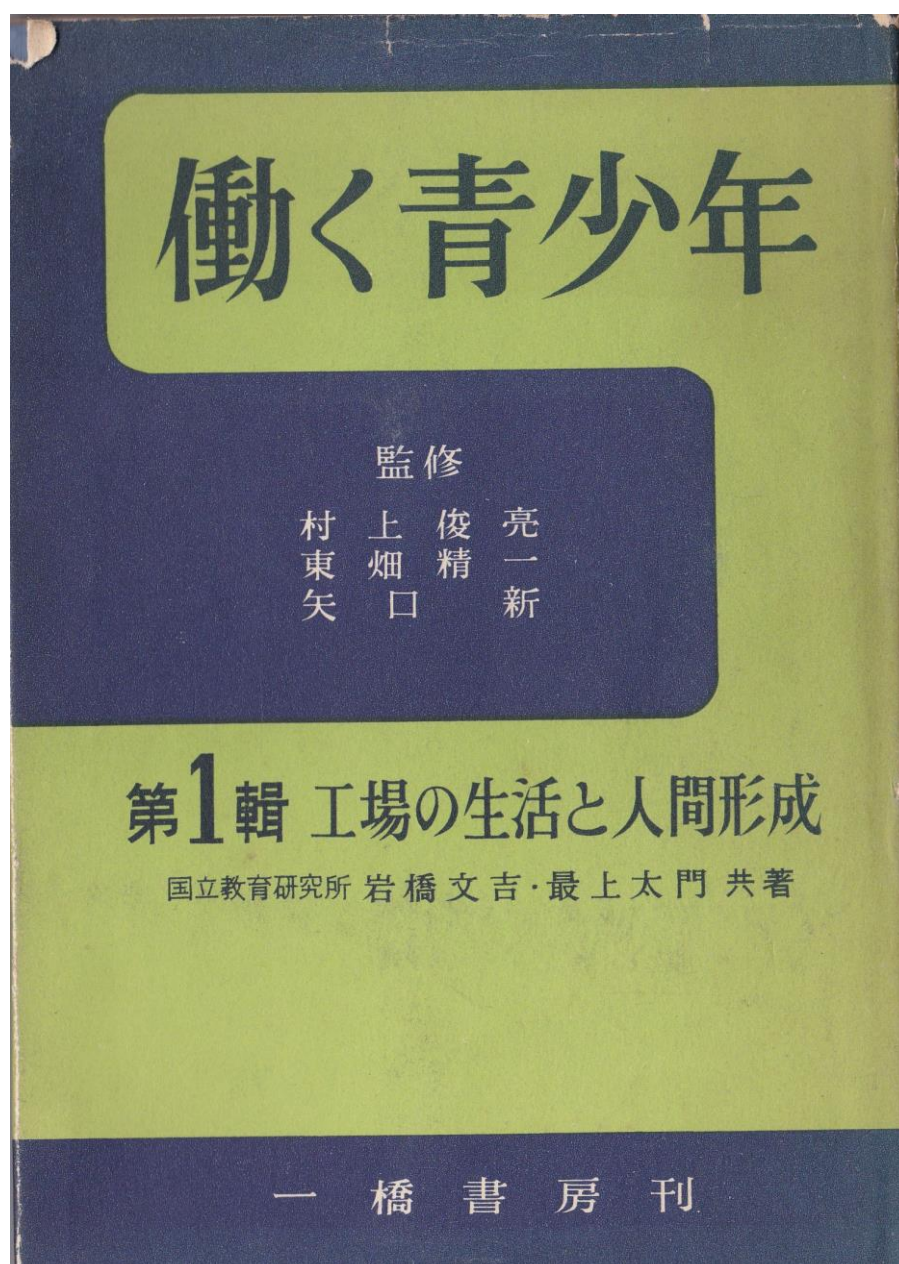


村上俊亮・東畑精一・矢口新 監修

『働く青少年』

第1輯 工場の生活と人間形成 (岩橋文吉・最上太門 共著)

1955年12月 (一橋書房)



監修のことば

働く青少年の問題は、現在世界的な関心事となっている。働く青少年が立派に育ち、健康で、すぐれた知識技能を発揮するようになれば、その国の前途は明るいからである。我が国でも年々中学校を卒業する百七十万の少年の中、實際生活に入って働く者は、六割を占めている。彼等は文字通り将来の国民大衆を形成するのであって、彼等が健全に育つことは、国家にとつては、最大の関心事でなければならぬ。この教育が国民教育の中で非常に大きい比重を占めることは言うまでもないことである。

しかし従来、教育といえば、正規の学校教育が考えられ、働く青少年の教育は、とくなくおざりにされ勝ちであった。最近に至つて働く勤労青少年教育ということが問題にされるようになったのは喜ばしいことである。けれども、現在の所働く青少年の教育はまだ全く未開拓といつてよい。それは彼等の生活が多種多様であつて、これを従来の学校教育のような觀念で律することは到底出来ないからである。彼等の教育は全く新しい方式によらなければならない。その生活の實際にあつた内容と方法がいかなるものかを、基本的に考え直さなければならぬ。従つて一口に働く青少年の教育といつても、問題を具体的に發展させるためには、まだまだこれから研究すべきことが多いのである。

勤労青少年教育の問題をとく第一歩は、どこまでも客観的、科学的に青少年の生活と教育の實際を分析して、基本的な問題を発見し、一步一步築きあげて行くことである。つまり、現在最も大切なことは、基礎的、基本的な調査研究ということである。

ここに働く青少年のシリーズを刊行するに至つた理由もまたそこにあるのであつて、現在迄に行われた基本的、基礎的な研究結果を大方の諸賢に知っていただきたいとねがうからである。このシリーズは、国立教育研究所の所員諸君によつて執筆されている。国立教育研究所は、数年来、働く青少年の教育問題について、調査研究を重ねて来てその結果については、所報、紀要などに発表されている。しかしそれらは、一部の専門的分野の人々のために提供されたものであつて、範圍は極く限られている。働く青少年の問題が最近とくに各方面に関心をもちたれて来てこの問題についての基本的資料とも言うべきものを、出来るだけ広く各方面の方々に提供することは意味があると思われるので、今回これを新しく書下していただいて、このシリーズを刊行するに至つたものである。勤労青少年教育を考える場合の重要な資料となるであろうことを確信する次第である。

このシリーズを刊行するに當つて、資料を利用することを心よく許していただいた国立教育研究所、また執筆する労に当られた所員の方々に厚く感謝の意を表する次第である。また刊行に至るまで、終始熱心に犬馬の勞をとられた一橋書房の高瀬太郎氏にも厚く感謝の意を表する次第である。

監修者

村上 俊亮

東畑 精一

矢口 新

目次

監修のことば

第一章 大企業体内の青少年集団の諸相

一 大工場における勤労青少年

職場で見うける青少年たち／授業を受ける一群／女子集団の構造

二 企業体の意図と青少年集団の性格

人為的につくられた集団／労働力としての技術／技術の習得と青少年の類型／勤労青少年集団の構造

第二章 工場青少年の生活と運命

一 工場青少年たちの社会的背景

年令の諸相／学歴から見た背景／農家出身と小市民／経済的不安

二 工場青少年たちの生活構造

居住の様式と自由／生活の構造の三つのタイプ

三 養成工型青少年の生活と運命

働き者の息子／進学と就職の岐路／文化的・教養的活動の積極性／

定時制高校進学と会社側の態度／運命の開拓と人生の戦い／

閉ざされた世界

四 現場見習工型青少年の生活と運命

立志のない就職／単能工としての修業／人間的形成と組織／

職場の雰囲気／人生の転換

五 人足型青少年の生活と運命

農村からの脱出／乗りこえ難い社会的障壁／放り出された存在

第三章 交通・運輸業に従事している青少年の生活と運命

一 教習生型青少年の社会的背景

年令的背景／教育の程度／家庭的背景／居住の形態と出身地

二 教習生型青少年の生活と運命

運命との対決のしかた／無自覚な就職／教習と実務／生活構造の

特殊性／教養活動と人間的成長

第四章 紡績女工の生活と運命

一 紡績女工型青少年の社会的背景

嫁入前の女子青少年／学歴からみた背景／農村の性格

二 紡績女工型青少年の生活と運命

出稼ぎ／職場での位置づけ／生活形態と人間形成の要因／生産活動

と近代的センス／学園と教養／集団生活と社会的自覚／経済的独立

と自由／私企業における公的なもの

第五章 大企業体に働く青少年の意識と態度

一 運命の自覚

意識の根底に横たわるもの／現在の職業への対し方／日常生活の設計

二 個人生活における進歩的傾向

婦人参政・信仰について／読書・趣味・尊敬する人物について

三 社会に対する意識と態度

社会を窺う眼／政治に対する関心／工場青少年の意見の傾向／教習

生型と紡績女工型の青少年の傾向

四 職場に対する意見

養成工たちの考え方／その他の男子集団の考え方／紡績女工の考え方

第六章 大企業体の教育機関

一 技能者養成機関

二 技能者養成所の教育（その一）

養成所教育のねらい／教育内容の構成／学科の内容と重点のおき方／

現場と実習／教養活動と生徒指導の問題

三 技能者養成所の教育（その二）

教育のねらいと内容／実習工場理念と実際／企業体の教育管理

四 附設定時制高等学校の教育

学校の性格／学科目の編成と単位／企業体の要求と学校

五 紡績工場附設学園の教育

整った施設／学園と生活構造／授業時間数の制約／教育内容の実態

／講師の組織／特別教育活動と寮組織／農村女子青少年の花嫁学校

六 大企業体の教育機関の問題点

一 一般教養と職業教育との連関の問題

学校教育の枠に入らぬ分野／人間形成の新しい方式

二 企業体の教育活動と利潤の問題

むすび

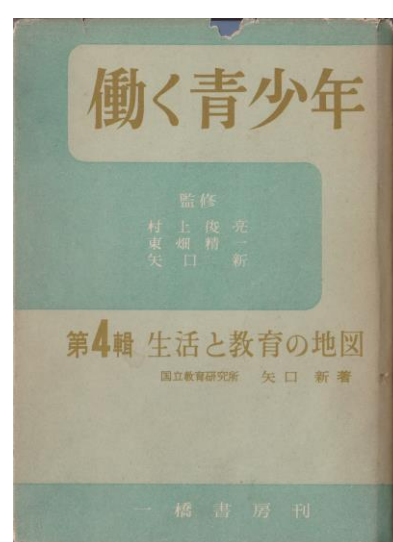
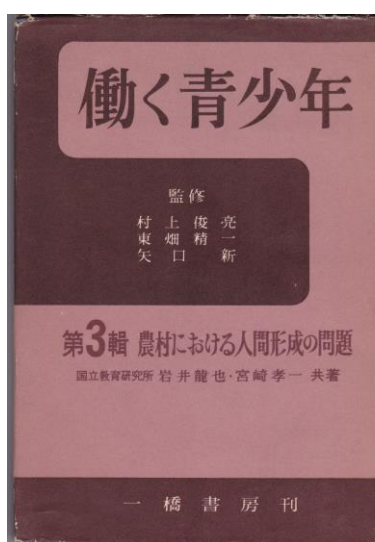
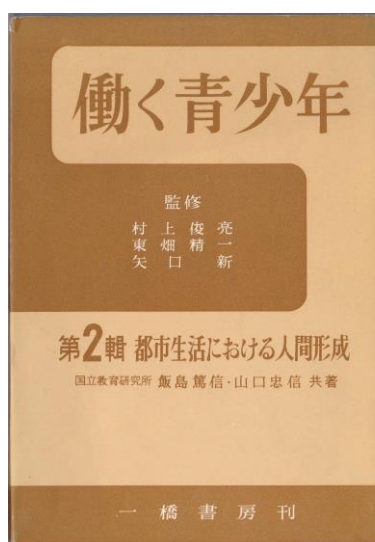
あとがき

図表索引

村上俊亮・東畑精一・矢口新 監修
『働く青少年』シリーズ

- 第1輯 工場の生活と人間形成（岩橋文吉・最上太門 共著）1955年12月
第2輯 都市生活における人間形成（飯島篤信・山口忠信 共著）1955年12月
第3輯 農村における人間形成の問題（岩井竜也・宮崎孝一 共著）1956年3月
第4輯 生活と教育の地図（矢口 新 著）1956年6月

一 橋 書 房



*以下のページに、第2～4輯の目次を収録しています。

『働く青少年』一九五五年十二月（一橋書房）

第二輯 都市生活における人間形成

国立教育研究所 飯島篤信・山口忠信

序 章

都市の青少年とは／都市青少年に見られる諸類型／現代社会に位置づかぬ者の不安

第一章

地方の町に住む小市民的青少年（富山県福野町）

織物の町福野／分化した青少年の職業／都市生活者の二代目の青少年たち／安住できない青少年たち／将来の生活に対する自覚／職業に対する青少年の意識／町の生活に対する関心と意見

第二章

離町の傾向の著しい町の青少年（福島県二本松町）

古風な城下町／青少年の職業はどうなっているか／町の生活に位置づかない青少年たち／教育に対する青少年の欲求／趣味教養に対する関心

第三章

山村中心の町に住む青少年（群馬県鬼石町）

林産物の集散地鬼石町／青少年の職業に見られる都市的傾向／早期に町を離れてゆく青少年たち／沈滞する残存の青少年たち／町の生活に対する考え方／貧弱な教育の機会

第四章

都市近郊の町に住む青少年（香川県平井町）

中都市近郊の町平井／都市に職場をもつ青少年たち／比較的安定している青少年層／都市生活者としての自覚／地域社会の問題に対する関心／職業に対する意識

第五章

大都市商工業地区の青少年たち（東京都松葉町と東両国）

都会の片隅に見る徒弟小僧の姿／苦しい徒弟小僧型青少年の生活／彼等を待っている運命は何か／徒弟小僧たちは何を考えているか／社会に対する関心は低い／教育に対する欲求は強い／読書は娯楽本位／彼等の理想は身近な所にある／職業意識に見られる消極性／若旦那型の青少年たち／若旦那型の趣味教養生活／政治経済問題に対する関心

第六章

大都市商工業地区の青少年たち（東京都南千住）

職人子弟型の青少年たち／不安定な彼等の生活／職業に対する消極的な意識／教育をもとでと考える子弟たち／この地区の青少年は何を求めているか／尊敬する人物／娯楽本位の読書傾向／どんな趣味をもっているか

第七章

大工場地帯に住む青少年たち（東京都平井と岩淵）

安定した近代労働者型の青少年／自己の向上に励む近代労働青年／趣味教養に見られる近代性／社会の問題に対する関心

むすび

あとがき

図表索引

『働く青少年』一九五六年三月（一橋書房）

第三輯 農村における人間形成の問題

国立教育研究所 岩井竜也・宮崎孝一 共著

序章

第一章 僻地村に住む青少年たち

一 純農村に住む青少年（茨城県橋村）

家業に盲従する青少年／離村を迫られる青少年／矢面に立たされる二男／抱え込まれた青少年の悩み／生活の設計に無関心／息子の運命に無関心な親たち／皮相な見方の社会観／息子の職場探しに懸命な親たち／比較的低い青年団への加入状況／典型的な行事型の青年団活動／行事によって形成される人間／青年の悲願として生れた夜学研修会／女子だけに開放された青年学級

二 山村にもみられる抱え込み型の生活（和歌山県奥安楽川村）

はだか山を抱えて苦しい村の生活／村から脱出してゆく青少年／ニコヨンの新生活の在村期間／奉仕にかりだすための青年組織／注目される青年の自主的活動

三 漁村に抱え込まれた青少年（三重県桃取村）

労働力を消化しきれぬ村の漁業／自らの運命に気づかぬ漁業青少年／時代がかった青年学級／趣味本位の青年団活動

第二章 近郊村に住む青少年たち

一 近郊村にみられる都市型青少年（兵庫県香呂村）

農耕をやる親と娘／青少年の職場は都市／都市への転出をはかる二三男／二足のわらじをはかされた農家の長男／就職動機にみられる積極的態度／職業に対する自覚が低い農業青年／都市青年に多い「適職なし」／農業にうちこめぬ農業青年／社会意識にみられる都市化の傾向／不思議に多い青年団への加入率／公民館に依存する青年団／盛んな趣味的なクラブ活動

二 村から姿を消してゆく都市型青少年（埼玉県植水村）

香呂村にもまさる都市化のさざし／浮き足立った下宿青年／レクリエーションなら組織化できる青年の生活／教養を求める一群の青年／青年の期待にそいえぬ村の教育機関

三 純農村にも住む都市型青少年（奈良県織田村）

圧倒的に多い商工青少年／交通の便から生れた都市型青少年／村の盛

んな教育熱／定時制高校をねらう青年学級／地縁関係では結ばれぬ人間関係

四 二代目都市青少年（大阪府山田村）

都市通勤が村の常識／親ゆずりの下宿型／村に腰をおちつけた生活／存続を危ぶまれる青年団／なりたない青年学級

第三章 出稼村に住む青少年たち

一 米どころにみられる出稼青少年（新潟県赤塚村）

米作だけではやってゆけない村／大工仕事や毒消し売りの出稼生活／「家」につながれた青少年の意識／尊敬する人物は二宮尊徳／青年団からしめだされた出稼青年／農業技術の伝習にとどまる青年学級

二 農漁村の出稼青少年（石川県北大吞村）

漁業の出稼でやつとなりたつ村の生活／黙って働く女達、漁業の好きな男達／信仰深い男達、信じきれない女達／抜け出せない土地柄の意識／新しい息吹き青年産業研究会／常識講座における青年学級

三 純漁村の出稼青少年（山口県通村）

原始的な漁業、貧しい島のくらし／男女をとわず出稼に／近代化しきれぬ青年宿／実技を身につけようとあせる青年学級

第四章 移出の盛んな村に住む青少年たち（静岡県勝間田村）

お茶づくりの村の生活／卒業と同時に村に別れをつける少年達／失意のうちに村にのこって生活する二三男／矛盾をはらむ青少年の意識／意気消沈の青年団／立ち消えになった青年学級

第五章 産業力豊かな村に住む青少年たち

一 果樹栽培にいそしむ青少年（岡山県浮田村）

ぶどうづくりで有名な村の産業／青年層も握る家の実権／農業に望みをかける青少年／都市青年なみの教養観と社会観／案外低調な課題意識／公民館に吸収された青年団活動

二 林業にいそしむ青少年（徳島県福原村）

景気の良い林業の村／仕事にことかかぬ青年の生活／生甲斐をみいだしえぬ山仕事／あこがれはクラブ活動

むすび

あとがき

図表索引

『働く青少年』一九五六年六月（二橋書房）

第四輯 生活と教育の地図

国立教育研究所 矢口 新

第一篇 青少年の意識の地図

第一章 職業観について

- 一 就職の理由について
- 二 継続意志について
- 三 職業生活の向上について

第二章 社会観について

- 一 社会問題についての関心度
- 二 関心の方向について
- 三 意見の内容について

第三章 生活観について

- 一 世代の差を感じるか
- 二 村や町に強い信仰心
- 三 スポーツ、社交ダンスに高い関心
- 四 男女の交際について
- 五 政治について
- 六 尊敬する人物
- 七 読書の傾向

第二篇 青少年の教育の地図

第一章 青少年の構成

- 一 働く青少年はどの位いるか
- 二 青少年はどの産業についているか

第二章 働く青少年の教育編成

- 一 教育機関の種類
 - 二 定時制高等学校
 - 三 青年学級
 - 四 各種学校
 - 五 四日クラブ
 - 六 技能者養成所
 - 七 青年団
 - 八 各種青少年団体
 - 九 教育編成の概況
- #### 第三章 働く青少年の教育問題
- 一 忘れられた働く青少年の教育
 - 二 学校教育への異常なあこがれ
 - 三 真の教育は生活の現場で

第三篇 働く青少年の生活の地図

第一章 町村の青少年の生活地図

- 一 座間町の概観
- 二 青少年の生活構造
- 三 青少年と青年学級
- 四 青少年と青年団
- 五 青少年教育に対する科学の眼

第二章 都会の青少年の生活地図

- 一 徒弟小僧の生活の図
 - 二 工場青少年の生活の図
- #### 第三章 生活と教育の新地図を

第四篇 青少年教育の課題

第一章 青少年教育の歴史的背景

- 一 実業補習学校の伝統
- 二 青年学校の歴史的意義

第二章 青少年教育の歴史的課題

- 一 伝統的教育観の打破
- 二 近代産業に働く青少年の編成

第三章 青年学級の課題

- 一 青年学級の形態
- 二 青年学級の諸類型
- 三 働く青少年の人生教育

第四章 青少年教育の建設のために

あとがき

図表索引